

公益財団法人ベネッセこども基金
2022年度重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成 申請書

事務局記入	
受付日	
No.	

黄色いセル： 入力用

青いセル： 入力不要

※セル内で改行する場合は、[ALT]+[Enter]キーを押す

【1】貴団体について							
1. 団体名(代表名)	団体種別/法人格	クリックして選択	その他を選んだ場合は記載				
	ふりがな	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center;"> <p>赤文字： 記入内容の説明</p> <p>青文字： 記入見本</p> </div>					
	団体名称						
	ふりがな						
	代表者名						
役職							
2. 代表者略歴	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center;"> <p>右欄の文字数以内で記入（全角）</p> <p>※セルを広げずに枠内で記入</p> </div>						
3. 団体住所/連絡先	郵便番号						
	都道府県名						
	市区町村・丁目番地						
	建物名など						
	代表電話番号						
	代表E-mail						
	団体サイト(URL)						
	団体Facebook(URL)						
その他・団体SNSなど							
4. 担当者/連絡先	ふりがな						
	担当者名						
	担当者電話番号						
	担当者E-mail						
	※担当者の発送物受け取り場所が 団体住所と異なる場合のみ記載	郵便番号					
	担当者住所						
5. 団体情報	職員数	常勤：		人	非常勤：		人
	ボランティア数	有償：		人	無償：		人
	昨年度収入計	直近の会計年度で実績の確定した数値を記入					円
	体制・組織図 ※別添も可						
6. 団体沿革 ※設立のきっかけ、 現在に至る経緯など	<p>申請事業以前に行っていた事業内容を経年で記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ●●年～：●●市にて病気療養中の小学生の学習支援と復学支援を開始 ●●年～：対象を中学生に広げる。ICTを使った遠隔地での学習支援開始 ●●年～：ICTを使って病室と前籍校とをつなぐ支援 ●●年～：院内学級のない高校生向け学習支援のトライアル開始 						
7. 団体が目指していること	団体のビジョン・ミッション	<p><ビジョン> すべての子どもたちが、自ら可能性を広げられる社会を作る</p> <p><ミッション> 私たちは……………</p>					
	中長期ビジョン ※特に助成終了後の 事業継続見通し	<p>義務教育後の学びを継続することができる体制(人材とネットワーク)を県内で確立し、行政と連携しながら制度化する。また全国の制度変更につなげる。</p> <p>*****</p>					

【2】本助成での活動計画		対象(地域/年齢)	地域:	年齢(学齢):
1. 本助成で取り組む課題	課題認識 ※支援対象者の現状などを記載	<p>これまでの活動や成果をふまえ、本助成で解決したい課題を記入。その中で支援する対象の状況や課題をご説明ください。 (できるだけ数字などの根拠もお示しください)</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで〇年間、●●市にて病気療養中の小中学生の学習支援を続けてきた。 義務教育のうち院内学級が設置されている病院もあるが、高校生段階になると院内学級などの制度は整っておらず、文科省の調査によると長期入院中の高校生の約〇%しか学習を継続できていないことがわかっている。 一方で、高校は出席や単位取得のルールが厳格で、長期入院中であっても継続的な学習が必要になる。病室や自宅でも学習できる環境がないと、進級や卒業を諦めざるを得ない。実際、弊団体の卒業生に実施したヒアリング調査でも、●件中●人の子どもに進級や進学を諦めたケースが見受けられた。 院内学級に通えない子どもたちの中で、弊社と接点があった子どもたちには学習支援を行えているが、市内や県内の実態は把握しきれていない。 高校生の学びの機会保障のためには、ICTを活用した遠隔授業の推進が有効だと考えられるが、学校と病院との連絡調整などを担うコーディネーター人材や具体的な実施ケースが少なく、実現へのハードルが高い。 進級や進学を諦めざるを得ない高校生たちは、将来への不安や焦りから治療や学習にも悪影響を及ぼしている。他方、学習が継続できると治療にもよい影響があるとの調査結果も出ている。高校生世代の進級・進学へのサポート、またキャリア形成へのサポートの重要性について社会的認知を高め、全国的な制度変更につなげていく必要がある。 		
	解決の方向性 期待される成果	<p>上記の課題を解決するための取り組みの方向性を記入。 ※3. で記入いただく「実行項目」もふまえてご記入ください。</p> <p><解決の方向性> 上記の課題を解決するために、長期的には全国的な制度変更につなげていきたいが、まずは県内の高校生たちが置かれている実態調査が必要になる。学校・病院の状況を把握し、どのような課題や解決の手立てがあるかを多角的に調査し検討する。また、実態調査を受けて、状況を改善するための解決モデルの検証を行う。そして、その取り組みの成果を広く発信し、短期的には寄付・ボランティアなどの継続的な支援者を増やし、長期的には、行例と連携して社会の仕組み化を目指したい。 よってまずは、2022年度は以下の3つに取り組むこととする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ●●県内の病気を抱える高校生世代の学びの実態調査 高校生世代の継続的な学習支援モデルづくりと検証 シンポジウムにて課題の認知拡大と取り組みの成果の発信 <p>上記の活動により期待される効果や目標について、教えてください。 (できるだけ規模感などがわかるようにご記入ください)</p> <p><期待される成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ●●県内の高校生・学校・病院の調査を通して本質的な課題が把握できる。 高校生世代の継続的な学習支援モデルとその有効性がわかる。 シンポジウムには行政や地域の方も巻き込み、課題の可視化と今後の支援者間でのネットワーク連携につなげる。 		
2. 申請事業名 ※活動内容をわかりやすく記載		1. をふまえた申請事業の名称を記入 ※申請事業の取り組みの内容がわかりやすい名称をご検討ください。 入院中・在宅療養中の高校生世代の継続的な学習支援モデルづくりと検証事業		
3. 実行項目 ※実行項目が1つの場合は①に記載	①	病気を抱える高校生世代の学びに関する実態調査の実施		
	②	病院・在籍校をつなぐ高校生への継続的な学習支援モデルづくりと検証事業		
	③	〇〇シンポジウムにて、①および②の実施報告		

【3】本助成での活動計画

重点実行項目① ※自動反映	病気を抱える高校生世代の学びに関する実態調査の実施		
対象 ※具体的に	地域:	●●県内(主に●●市および●●地域)	年齢(学齢): 高校生 約●人
施策の内容 ※規模、回数、連携先などもわかるように記載	●●県内の高等学校、特別支援校高等部、○○箇所 ●●県内の総合病院(院内学級)○箇所 ●●県内の長期入院中、在宅療養中の高校生○人 に対して、高校・病院・高校生の学習継続に関するニーズ調査を郵送アンケートにて行う。必要に応じて電話ヒアリングなども追加で行う。有識者と事前検討のうえ、調査票を作成する。配布回収後、有識者と共に分析、解決策を検討する。 *****		
達成目標 ※定性目標(成果、成果物) ※定量目標(数値、数的指標)	<定性目標> 病気を抱える高校生の学びの実態とニーズ、関係各所の現状や問題点、課題解決にむけてのボトルネックが明らかになる。 重点実行項目②の対象者、実践方法を決定する。 <定量目標> アンケート調査回収率60%(回答者数●名以上)		
重点実行項目② ※自動反映	病院・在籍校をつなぐ高校生への継続的な学習支援モデルづくりと検証事業		
対象 ※具体的に	地域:	●●県内(主に●●市および●●地域)	年齢(学齢): 高校生 約●人 (①の結果で決定)
施策の内容 ※規模、回数、連携先などもわかるように記載	①の結果を受けて、入院中・在宅療養中で、オンラインによる遠隔授業で高校に在籍したまま学習を継続したい意向があるが、難しい状況にある高校生○名に対して、次のステップで遠隔での学習支援を行う。 ①実施基盤の整備 ・学校、病院、高校生・保護者との実施への打合せ(高校生の学びの実態に応じた学習プラン立案) ・ICT環境整備:タブレットWi-Fiルーター等の貸与 ・コーディネーターの配置:専任2名 ②遠隔での学習支援の実施 ・2か月ごとに進捗や課題、成果を確認した結果を関連各所にメールで連携 *****		
達成目標 ※定性目標(成果、成果物) ※定量目標(数値、数的指標)	<定性目標> 生徒が高校に在籍したまま、学習が継続できる体制のモデルケースをつくる。 設定や通信環境でうまく実施できなかったケースの事例をリストアップし、予防策や解決策について関連各所と相談する体制ができる。 <定量目標> 高校生●名に対して、のべ●回の遠隔学習支援を実施する。		
重点実行項目③ ※自動反映	○○シンポジウムにて、①および②の実施報告		
対象 ※具体的に	地域:	全国(オンライン)	年齢(学齢): 年齢制限なし(子どもから大人まで)
施策の内容 ※規模、回数、連携先などもわかるように記載	*****		
達成目標 ※定性目標(成果、成果物) ※定量目標(数値、数的指標)	*****		

2. スケジュール ※重点実行項目別に、助成期間(2022年4月～2023年3月)の主なスケジュールを記載

	重点実行項目① ※自動反映	重点実行項目② ※自動反映	重点実行項目③ ※自動反映
		病気を抱える高校生世代の学びに関する実態調査の実施	病院・在籍校をつなぐ高校生への継続的な学習支援モデルづくりと検証事業
4月	調査企画立案 有識者との検討をふまえ、調査票を作成		
5月	査票配布・回収		
6月	集計。必要に応じて電話ヒアリングなども行う		
7月	課題分析と解決策検討を有識者と共に行う	実施基盤の整備 *****	
8月		学習支援の実施 *****	
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月

3. 予算計画 本申請事業の予算を、重点実行項目ごとに記載（記入例を参考に、根拠が明確にわかるように単価・人数・回数等を明記） ※内訳／算定根拠は、実行項目とのつながりがわかるように記載してください（単位：円）				
重点実行項目① ※自動反映	病気を抱える高校生世代の学びに関する実態調査の実施			
項目	内訳／算定根拠	(a)費用計	(b)本助成	(c)他の財源
会場賃借料		0		
制作費		0		
印刷費	アンケート調査票印刷(A4用紙5ページ) 単価**円 × ***部 アンケート送付要封筒印刷(角2封筒) 単価**円 × ***部 アンケート返信用封筒印刷(長3封筒) 単価**円 × ***部	20,000	20,000	0
広告宣伝費		0		
人件費	本事業推進スタッフ人件費 ***円/時×○時間×◇か月	50,000	30,000	20,000
謝礼	有識者協力謝礼金***円×2名×2回	40,000	40,000	0
旅費交通費	打合せ駐車場代***円×4名×2回	8,000	8,000	0
運賃通信費	アンケート調査票発送(***円×***部)***円	5,000	5,000	0
会議費	会議用お茶、茶菓子1000円×2名×2回	4,000	4,000	0
図書新聞費		0		
消耗品	宛名ラベルシール、インクカートリッジ、文具	10,000	10,000	
備品		0		
委託費		0		
その他①		0		
その他②		0		
その他③		0		
合計	(a):費用計／(b)本助成申請金額計／(c)他の財源計	137,000	117,000	20,000

重点実行項目② ※自動反映		病院・在籍校をつなぐ高校生への継続的な学習支援モデルづくりと検証事業			
項目		内訳／算定根拠	(a)費用計	(b)本助成	(c)他の財源
会場賃借料			0		
制作費			0		
印刷費			0		
広告宣伝費			0		
人件費			0		
謝礼			0		
旅費交通費			0		
運賃通信費			0		
会議費			0		
図書新聞費			0		
消耗品			0		
備品			0		
委託費			0		
その他①			0		
その他②			0		
その他③			0		
合計		(a):費用計／(b)本助成申請金額計／(c)他の財源計	0	0	0

重点実行項目③ ※自動反映		〇〇シンポジウムにて、①および②の実施報告		
項目	内訳／算定根拠	(a)費用計	(b)本助成	(c)他の財源
会場賃借料		0		
制作費		0		
印刷費		0		
広告宣伝費		0		
人件費		0		
謝礼		0		
旅費交通費		0		
運賃通信費		0		
会議費		0		
図書新聞費		0		
消耗品		0		
備品		0		
委託費		0		
その他①		0		
その他②		0		
その他③		0		
合計	(a):費用計／(b)本助成申請金額計／(c)他の財源計	0	0	0

重点実行項目①～③ ※自動反映				
予算計画まとめ	項目	(a)費用計	(b)本助成	(c)他の財源
	会場賃借料	0	0	0
	制作費	0	0	0
	印刷費	20,000	20,000	0
	広告宣伝費	0	0	0
	人件費	50,000	30,000	20,000
	謝礼	40,000	40,000	0
	旅費交通費	8,000	8,000	0
	運賃通信費	5,000	5,000	0
	会議費	4,000	4,000	0
	図書新聞費	0	0	0
	消耗品	10,000	10,000	0
	備品	0	0	0
	委託費	0	0	0
	その他①	0	0	0
	その他②	0	0	0
	その他③	0	0	0
合計	137,000	117,000	20,000	

予算総額	事業総額	137,000	円
	うち助成申請額	117,000	円

申請時 初年度予算 (c)他の財源の内訳			
下記であてはまるものに☑ (複数可)		内訳	金額(円)
<input type="checkbox"/>	①行政の補助金		
<input type="checkbox"/>	②本助成以外の助成金		
<input type="checkbox"/>	③寄付・会費		
<input type="checkbox"/>	④その他の財源		

申請内容について、お電話等で確認をさせていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

【任意】2022年度ベネッセ子ども基金 助成事業アンケート

ベネッセ子ども基金では助成事業だけでなく、支援が届きにくい領域における学びのモデルづくりや、助成団体の成果を情報発信するなどの自主事業にも取り組んでいます。今後のご支援に役立てていくための簡単なアンケートにご回答をお願いいたします。なお、ご回答内容は、選考には一切影響いたしません。

	☑	ツール名	サイトURL
Q1. ベネッセ子ども基金の本年度助成の募集告知を、どこで見ましたか？ あてはまるものすべてに ☑を入れてください。 ※複数回答可	<input type="checkbox"/>	ベネッセ子ども基金のFacebookページ	https://www.facebook.com/benessekodomokikin2014
	<input type="checkbox"/>	ベネッセ子ども基金のYouTubeチャンネル	https://www.youtube.com/channel/UChU6G-PuSGA12YHoEBiv-w/
	<input type="checkbox"/>	ベネッセ子ども基金サイト 助成ページ	https://benesse-kodomokikin.or.jp/subsidy/
	<input type="checkbox"/>	CANPANの助成制度サイト	https://fields.canpan.info/grant/
	<input type="checkbox"/>	ベネッセ子ども基金 重い病気募集ビラ	
	<input type="checkbox"/>	NPOセンターの告知やメルマガ	
	<input type="checkbox"/>	知り合いの紹介	
	<input type="checkbox"/>		

Q2. 重い病気を抱える子どもの課題について、国や行政の支援が十分でないと感じる点や、今後、力を入れていくべきテーマがありましたら具体的に回答ください。 ※いくつでも	
--	--

Q3. これまでに組織や事業に関して、第三者による評価を受けたことはありますか？ある場合は、最新年度と評価機関をお教えてください。 ※例： 非営利組織評価センター、各都道府県における福祉サービス第三者評価事業 等	
---	--

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。